

国際保全パートナーズ

# UAPACAA

Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa

Jeunes Hayama Crest 201

459-1 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan

Phone: +81(70)4486-6609 Email: [admin@uapacaa.org](mailto:admin@uapacaa.org)

<https://www.uapacaa.org/>

---

## 設 立 趣 旨 書

NPO法人UAPACAA国際保全パートナーズ が目指す、

=====  
私たちの暮らし、動物たちの暮らし—グローバルゼーションの中の自然保護  
=====

研究者とジャーナリストが集まって、NPO法人UAPACAA国際保全パートナーズを設立しました。Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa、アフリカで野生動物の重要な食料源となっている、ウアパカの木にちなんでつけた名前です。

私たちに共通するキーワードは霊長類。

アジア、アフリカから南米まで、サルという動物は現在、地球上でもっとも繁栄していて、熱帯を中心に、ほかの動物には見られない分布域の広さを誇っています。「アジアにも、アフリカにも、南米にもいる動物は？」という質問はまるでなぞなぞですが、“樹の上で暮らす”という特殊技術を身につけた霊長類は、各地で自然環境に適応しながら進化してきました。300種あまりもいるサルの日常をたどってみると、地球環境の多様性の縮図をみることができます。

人間に近いゴリラやチンパンジーなど大型類人猿を筆頭に、霊長類を長年、フィールドで観てきた私たちのミッションは、彼らと共存する「地球社会」の平和に貢献することです。現在は、サルだけでなくゾウやトラといった生態系を代表する野生動物の多くが、絶滅危惧種といういわば“不名誉”な立場に追い込まれています。これは人間の勢力範囲があまりにも急激に拡大し、彼らの暮らしを圧迫しているからにほかなりません。

この現状に対して、「日本にはニホンザルがいて、最近は増えているぐらいなんだから、自然も豊かなんでしょ？ クマとかシカとか野生の動物もたくさんいるんだし、関係ないんじゃないの？ 生息地の国の人たちが守ってくれなきゃどうしようもない」と、考える人も多いかも知れません。

しかし、日本の自然や野生動物が守られているように見えるのは、私たち日本人が、暮らしの基本をほとんど海外に依存しているおかげです。主食のお米こそ自給していますが、お豆腐や納豆、しょうゆの材料に欠かせない大豆の自給率はたった7%（食用に限っても25%；平成27年）、家を建てるための木材も、70%を輸入に頼る現実があります。

日本人が普段、何気なく食べたり使ったりしているもののおかげで、遠い熱帯の野生動物の棲み処を荒らしているとしたら、その責任は重大です。しかも困ったことに、経済のグローバル化が世界の隅々まで行き渡ったおかげで、その因果関係はますますわかりにくくなってしまいました。こういった問題は不公平で、自然に頼って暮らす世界でもっとも貧しい一言い換えれば、もっとも環境破壊の原因とは縁遠い一人々と、豊かで多様な自然が残る生態系に、まずしわ寄せが来るのが常です。

そこで私たちは、国際社会と連携し、地球上に残された稀少な自然環境と野生動物の保護を推進するため、NPO法人を立ち上げます。現地政府や住民コミュニティが展開するプロジェクトへの国際協力を通じて、地域の持続可能な開発をお手伝いし、自然と共存できる社会づくりを目指していきます。

また、自然を守る現地の活動を日本で広報していくことで、グローバル化がどのような影響をもたらしているのか、より深い理解を促したいと考えています。このようなアウトリーチは個人の努力に加え、賛同する関係者がNPO法人として活動することで、社会的信頼を得て発信力の強化に結びつき、国際貢献を考える方々と現地の繋ぎ役となることも可能になります。

皆さまの温かいご支援をよろしく願いいたします。

2018年 4月 6日

法人の名称 NPO法人UAPACAA国際保全パートナーズ

設立代表者 岡安 直比